



発行所

一般社団法人 全日本木材市場連盟
編集・発行人 東京 小島 友比呂
〒112-0004 電話 03(3818)2906
FAX 03(3818)2907
毎月1回1日発行
定価 年3,000円
(会員は会費に含まれています。)

九州熊本地震お見舞い

平成28年4月14日以降続いた九州・熊本群発地震によって亡くなられた方々に哀悼の意を表しますと共に、被災者の皆様に衷心より、お見舞い申し上げます。地震被害からの速やかな御快復、御復興をお祈り申し上げます。

震災お見舞い御礼

この度の「熊本地震」(平成28年4月14日・16日震度7)につきまして、全市連市川会長様始め、多くの会員の皆様から早々と「心配のメール・電話・Fax」支援物資「義援金」等を頂き、感謝に耐えません。本当にありがとうございます。象序も今後については「ハッキリ分らない」との報道(心配を増幅させておられます)。近原(大分県など)も被害があるようですが、オール熊本・オール九州の復活を目指して頑張っています。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。ありがとうございます！

九州木材市場連合会・熊本県木材市場連合会・会長/佐藤耕三(肥後木材株)・副会長/島村武(熊本木材株)・山口登

木材アドバイザー合格者

(株)水俣木材市場・平川勝(上益城木材事業協)・足達勝徳(株)人吉素材流通センター・那須主隆(湯前木材事業協)

当連盟は、4月1日(金)、「木材アドバイザー審査委員会」を開催し、今年2月に開催した「平成27年度木材アドバイザー養成講習会」の合格者72名を決定した。委員会には、日本木材・合板博物館の岡野健館長(委員長)など講師各位及び当連盟市川英治会長等が出席した。合格者の氏名は、全市連ホームページに掲載する。また、問い合わせがあれば、名簿の提供を行う。合格者は、以下のとおり(敬称略)。青野悟(宮城県)、赤木純一(岡山県)、雨森裕介(埼玉県)、荒谷清史(福井県)、飯沼佐代子(東京都)、五十嵐隼(山口県)、池内大作(大阪府)、池田慎一(東京都)、石原勝好(愛知県)、伊勢直人(大阪府)、井上恵司(大阪府)、猪爪淳一(大阪府)、梅田正統(大阪府)、大島伸一(兵庫県)、大塚郁夫(東京都)、大塚基弘(岡山県)、大西良洋(岡山県)、岡崎孝哉(福島県)、笠井智広(山口県)、加藤賢治(埼玉県)、河合直温(京都府)、川島優(埼玉県)、菊地大輔(宮城県)、岸本光樹(奈良県)、北田大(香川県)、

27年全市連会長賞を決定

北出満(三重県)、小松亮介(東京都)、佐々木翔太(宮城県)、佐藤泰彰(福島県)、佐野雅樹(東京都)、塩塚(渡辺)真吾(東京都)、清水亮多(埼玉県)、庄司良(山梨県)、白澤昭(東京都)、鈴木邦彦(福島県)、鈴木健(宮城県)、高柳政弘(富山県)、竹野輝之(埼玉県)、田中徹(大阪府)、戸田ひろみ(新潟県)、都丸和紀(東京都)、富永好郎(千葉県)、内藤公雄(千葉県)、中野修二(兵庫県)、中村一馬(大阪府)、中村紳一郎(東京都)、中山正規(香川県)、難波正夫(岡山県)、西岡敏郎(東京都)、西川貴章(大阪府)、野崎晃次(宮城県)、長谷井勝年(岡山県)、早川輝稔(東京都)、早川秀輝(福島県)、早田智(山口県)、廣江良行(岡山県)、松永紳吾(東京都)、松本凜(京都府)、三浦幸恵(福島県)、水野雅夫(岐阜県)、都賢太郎(大分県)、村崎友彦(広島県)、村田志都(大阪府)、森原規之(広島県)、八木良道(大阪府)、安池淳二(東京都)、山崎雄市(東京都)、山本哲也(千葉県)、横瀬定光(埼玉県)、吉富雄基(山口県)、和才八重子(福岡県)、渡辺国一(埼玉県)。

主要木材の需給見通し(平成28年第2四半期及び第3四半期)について

(林野庁策定・公表)

1. 見通しの要点

(1) 平成28年第2四半期(4~6月)の需要は、国産材製材用丸太、輸入丸太、合板、構造用集成材は前年同期と比べ増加する一方、国産材合板用丸太、輸入製材品は前年同期に比べ減少の見通し。

(2) 平成28年第3四半期(7~9月)

主要木材の入荷量等の概要

	国産材丸太		輸入丸太	輸入製材品	合板	構造用集成材
	製材用	合板用				
26年第1四半期実績	3,123 (107)	746 (103)	1,230 (110)	1,659 (97)	1,647 (104)	564 (112)
26年第2四半期実績	3,108 (101)	871 (109)	1,107 (86)	1,796 (85)	1,676 (100)	565 (95)
26年第3四半期実績	2,839 (100)	752 (101)	862 (86)	1,582 (75)	1,477 (93)	502 (86)
26年第4四半期実績	3,141 (98)	822 (109)	888 (79)	1,393 (79)	1,497 (93)	506 (88)
26年計 (実績)	12,211 (101)	3,191 (106)	4,086 (91)	6,430 (84)	6,297 (97)	2,137 (95)
27年第1四半期実績	2,989 (96)	819 (110)	824 (67)	1,454 (88)	1,484 (90)	468 (83)
27年第2四半期実績	2,956 (95)	844 (97)	878 (79)	1,599 (89)	1,375 (82)	508 (90)
27年第3四半期実績	2,747 (97)	782 (104)	755 (88)	1,532 (97)	1,345 (91)	545 (109)
27年第4四半期実績	3,143 (100)	913 (111)	885 (100)	1,547 (111)	1,451 (97)	509 (101)
27年計 (実績)	11,835 (97)	3,358 (105)	3,343 (82)	6,132 (95)	5,656 (90)	2,030 (95)
28年第1四半期見込み	3,050 (102)	780 (95)	890 (108)	1,482 (102)	1,433 (97)	500 (107)
28年第2四半期見通し	3,100 (105)	780 (92)	915 (104)	1,485 (93)	1,430 (104)	540 (106)
28年第3四半期見通し	3,200 (117)	790 (101)	815 (108)	1,500 (98)	1,450 (108)	550 (101)

(単位：千㎡、%) (括弧内は前年比又は前年同期比)

の需要は、国産材製材用丸太、輸入丸太、合板は前年同期に比べ増加する一方、国産材合板用丸太、輸入製材品、構造用集成材は前年同期とほぼ同じとなる見通。

(3) 平成27年度の新設住宅着工戸数は、景気の緩やかな持ち直しを反映して前年度に比べて増加すると見込まれる。

2. 意見等の概要

(1) 経済情勢

・実質GDP成長率は、平成26年度は公共投資、輸出等がプラスに寄与したが、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動による個人消費等の冷え込みが大きく影響し、△1・0% (実績) の成長。

・平成27年度は消費税率引き上げの影響も薄らぎ、基本的には緩やかな持ち直しが続くと思されるため0・6%の成長と見込まれる。

(2) 住宅着工

・平成26年度の新設住宅着工戸数は、全体で約880千戸(前年同期比89・2%)、持家が約278千戸(同78・9%)、貸家が約358千戸(同96・9%)、分譲一戸建が約124千戸(同92・8%)、分譲マンションが約110千戸(同89・0%)であった。持家の着工数がかなり低調。

・平成28年1月の新設住宅着工戸数は、約6万8千戸で前年同月比100・2%と2ヶ月ぶりプラスに転じた。

・平成27年度の新設住宅着工戸数(見通し)は、対前年比103・3%の90万9千戸と想定。

・平成28年度の新設住宅着工戸数(見通し)は、対前年比102・1%の92万8千戸と想定。

(3) 木材輸出動向

・平成27年の1月～12月累計の木材輸出

額は、約229億円(対前年同期比129%)と平成以降最高額となった。一方で、平成28年1月の木材輸出額は約12億円(対前年同月比89・6%)とマイナスに転じた。

・品目別には、丸太約94億円(対前年同期比137%、構成比41%)、製材品約35億円(同104%、同15%)、合板約30億円(同223%、同13%)等。

・国別には、中国約89億円(対前年同期比131%、構成比39%)、韓国約38億円(同132%、同17%)、フィリピン約35億円(同177%、同15%)、台湾約21億円(同104%、同9%)等。

(4) 主要木材需給動向

ア 国産材(需要(工場入荷))

① 製材用丸太・暖冬で降雪量が少なかったこともあり、出材量は増えてきている。住宅ローンの金利が下がり、平成28年第2四半期、第3四半期ともに前年比増加を期待。

② 合板用丸太・南洋材原木の輸入量が減少し、国産材へのシフトが進んでいることから、平成27年第4四半期は前年同期比で増加。今後は平成28年第1四半期から第3四半期までほぼ同水準で推移し、第2四半期は前年比で減少、第3四半期は前年並みの見通。

イ 米材

① 丸太・需要は、堅調に推移し、平成28年第2四半期、第3四半期ともにほぼ前年並みの見通。為替水準と消費税増税の影響に大きく左右されると考えられる。供給には大手製材メーカーの需要に応えるかたちで平成28年第2四半期、第3四半期とも前年比で増加の見通。

② 製材品・需要は、プレカット工場の稼働率が低下し、各商社も買付に慎重な姿勢を見せているため、平成28年第2四半期は前年比で減少、第3四半期はやや持ち直して前年並の見通。供給は、各商社の低調な成約を受け、平成28年第2四半期は前年比で減少、第3四半期はやや持ち直して前年並みの見通。

ウ 欧州材(製材品供給)・ホワイトウッドの原木調達に難しい状況にあり、現地の大手製材工場が減産していることから、平成28年第2四半期、第3四半期とも前年比で減少の見通。

エ 南洋材

① 丸太・製材向けの需要は、大きな振れはなく平成28年第2四半期、第3四半期ともに前年並みの見通。合板向けの需要は、大きな振れはなく平成28年第2四半期、第3四半期ともに前年並みの見通。供給は、需要に応じることが推し、平成28年第2四半期は前年比で減少、第3四半期は前年比で増加の見通。

② 製材品・需要は、住宅着工数の増加と公共事業物件を見据えて平成28年第2四半期、第3四半期ともに前年比で増加の見通。供給は、大きな変動はなく、平成28年第2四半期、第3四半期ともに前年並みの見通。

オ 北洋材 ① 丸太・需要は、平成28年第1四半期は前年比で増加の見込み、このまま同水準で推移し平成28年第2四半期は前年比で増加、第3四半期はほぼ前年比で減少の見通。供給は、ファイアークロージャの時期に米材の出材が減少した場合の手当として引き合いが出ることで予想、平成28年第2四半期は前年並み、

第3四半期は前年比で増加の見通。

②製材品(供給)・現地の日本向け製材工場の原木調達不振、平成28年第2四半期は前年比で減少、第3四半期はやや持ち直して前年比で増加の見通。

カ ニュージーランド・チリ材

①丸太・需要は、原木価格が強含み、平成28年第2四半期、第3四半期ともに前年比で減少の見通。供給は、輸出回復の期待や産業資材分野でのシェア競合が安定化することから、平成28年第2四半期、第3四半期とも前年比で増加の見通。

②製材品・需要は、国産材との競合や在庫量との調整から平成28年第2四半期は前年比で減少、第3四半期は前年並みの見通。供給は、在庫過多の状況から購買意欲が少なく、平成28年第2四半期は前年比で減少、第3四半期はやや持ち直して前年比で増加の見通。

キ 合板

①国内製造・需要は消費税増税を見込んだ住宅販売強化によりハウスメーカー工場並びにプレカット工場の仕事量増加が予測、平成28年第2四半期は前年比で増加、第3四半期は同水準で前年並みの見通。供給は住宅用、土木用資材とも需要の拡大が予測、平成28年第2四半期、第3四半期ともに前年比で増加の見通。

②輸入・需要は、消費税増税による住宅及びマンションの駆け込み需要の発生が予測、新年度の公共工事発注により型枠合板需要が見込まれ、平成28年第2四半期、第3四半期とも前年比で増加の見通。供給は、消費税増税に伴う需要に応じてフロア合板を中心に引き合いが出ると予測、平成28年第2四半期、第3四

半期ともに前年比で増加の見通。

ク 構造用集成材(供給)

①国内製造・低金利政策や消費税増税に対する駆け込み需要が予測され、平成28年第2四半期は前年比で増加、第3四半期は前年並みの生産量の見通。

②輸入・欧州大手メーカーの生産供給が安定すると見込まれ、平成28年第2四半期、第3四半期とも前年比増加の見通。第3四半期は過剰供給気味も予想。

「桜を見る会」開催

平成28年4月9日、安倍総理は、東京都内の新宿御苑で桜を見る会を開催しました。

当連盟からは、市川英治会長が招待され、出席しました。

安倍総理は、招待者を前に、概略、次のように挨拶しました。

「私にとって5回目の会となりますが、

今まで桜の花がほとんどなく、桜の散るのを見る会ではないかと言われましたが、今年は、ソメイヨシノも最後一ふくうらまだ粘っており、八重桜は、だいたい七分咲きぐらい。両方を見ることができるのは、今までなかった。私も、ソメイヨシノのような粘り腰でこれからも頑張っていきたい、まだ六分咲きの八重桜の思いで頑張っていきたい。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、大震災から立派に復興して元気になった日本の姿を世界に発信したい。今日一日、皆様と共に、楽しく過ごさせていいただき、後半国会、気を引き締めて乗り切っていきたい。予算も成立しました。この予算を早く全国津々浦々にお届けす

ることも、私たちの仕事。今日の桜のように、日本中の桜に花が咲く、日本に花が咲き誇る日本を創っていくために、皆さんと共に頑張っていきたい。」



(安倍総理)



(会場風景)

春の叙勲

平成28年度春の叙勲において、黄瀬稔(松坂地区木材協同組合理事長・三重県木連会長)が旭日小綬章を受章しました。おめでとうございます。

木材サミット F-I-T 関連情報交換会

平成28年02月04日(木)に木材サミット主催のF-I-T関連情報交換会が、江東区新木場の新木場タワービル大会議室で開催された。参加者は、木材サミット連絡会会員等220名で、うち約10名が市場関係者と関係者の関心の高さが伺われた。情報提供者とその概要については、以下のとおり。

(1) (一社) 日本木質バイオマス協会 熊崎 実 会長

「F-I-T・木質バイオマス発電の現状と今後」

ア ドイツのバイオマスF-I-T・15年の軌跡

イ 今後は分散型熱電併給が主流になるウ コスト削減のかなめ・カスケード利

用の徹底

エ 望まれる未利用木質資源の最大活用

(2) 日本製紙連合会 上河 潔 常務 「転換期にきたF-I-T制度による木質バイオマス発電」

ア F-I-T制度による木質バイオマス発電の影響・既存用途からの転用・既存用途の価格の高騰・木質バイオマスの輸入増加の可能性

イ F-I-T制度による木質バイオマス発電の問題点・規模別になっていない売電価格・燃料調達の確実性・熱電併用施設の取扱

(3) 国産材製材協会 東泉清寿 副会長

「現場から見たF-I-T 木質バイオマス発電の現状」

ア (株) トーセン会社概要・安定供給のための「母船式木流システム」

イ 森林未利用材と日本の林業・オーストリアの木材メテリアル利用フロー・世界有数の資源に成長した日本の森林・GDP、エネルギー消費、CO2の日独比較

ウ 那珂川の実例・木質バイオマス発電所・地域熱利用事業・木の駆けプロジェクトながわ・バイオマス・ホフたかはら・地域熱利用事業

エ 国産材資源フル活用 ・これからの林業のために「エネルギーフォーレ50(バイオマスエネルギー)軸とした50km産業圏プラン」

(4) 日本合板工業組合連合会 川喜多進 専務理事

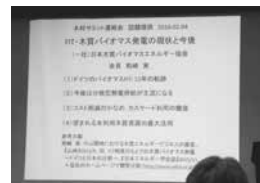
「合板産業とF-I-T・木質バイオマス発電に係る原木の安定供給等について」

- ア 日合連とは
- イ 針葉樹・広葉樹別国産合板生産量
- ウ 国産合板生産用丸太消費量
- エ とことん使う木質資源リサイクル
- オ 未利用間伐材等について
- カ 国産材原木の持続的、安定的確保のための要望書
- (5) 日本繊維板工業会
 - 瀧川充朗 専務理事
- 「木質ボード工業の現状とF I T・木質バイオマス発電」
- ア 現状
 - ・木質ボードの種類と分類・製造工程
 - ・会員会社・原料使用量、販売量、使用割合推移・木材のカスケード利用
- イ 動向・建築廃材調達動向・行政動向
 - ウ まとめ
 - ・既存産業の立場
 - ・F I T全般
- (6) 全国木材チップ工業連合会
 - 後藤武夫 相談役
- 「我が国木材チップ産業の現状とバイオマスの利用について」
- ア 森林資源と木材需給・現況調査・計画と実績・木材需給の推移
- イ チップ産業の推移・工場数・従業者・原料区分別木材チップ生産量の推移・パルプ材価格・チップ価格の推移
- ウ 再生可能エネルギーの固定価格買取制度
- エ F I T発電計画の概要
- (7) 認定N P O全国木材資源リサイクル協会連合会 澤地義雄専務理事
- 「木質資源リサイクル業界の現状とF I T・木質バイオマス発電」
- ア 認定N P O全国木材資源リサイクル

- 協会連合会
- イ 廃木材取扱量・出荷量
- ウ F I T事業者認定・出荷量
- エ F I T認定に係る今後の対応



(会場の様子 1)



(会場の様子 2)

■ C L Tを用いた建築物 一般的な設計法等の制定

1. 国土交通省では、平成28年3月31日(木)及び4月1日(金)、C L T(※1)を用いた建築物の一般的な設計法等に関する、建築基準法に基づく告示を公布・施行した。これまでは、C L Tを構造部材として用いるためには、建築物ごとに精緻な構造計算を行い、大臣認定を受けることが必要でしたが、今後は、告示に基づく構造計算等を行うことにより、大臣認定※2を個別に受けることなく、建築確認により建築が可能となります。

(※1) C L T(直交集成板)とは、ひき板又は小角材をその繊維方向を互いにほぼ平行にして幅方向に並べ又は接着したものを、主としてその繊維方向を互いにほぼ直角にして積層接着し3層以上の構造を持たせた一般材のこと。※2建築基準法第20条第1項第一号に基づく大臣認定。

- 2. 主な告示の制定・改正の内容
- (1) C L Tを用いた建築物の一般設計法

建築物の規模に応じた構造計算及びそれに応じた壁、床又は屋根の仕様等を定めた。本告示に基づく構造計算等を行うことにより、大臣認定を個別に受けることなく、建築確認により建築が可能となる。

(2) C L T材料の品質及び強度

C L Tが建築物の構造材料として一般化することに伴い、所要の品質を確保するため、日本農林規格(J A S)に適合するもの等を使用することを義務づけるとともに、構造計算の際に用いる材料の強度を定めた。

(3) C L T部材等の燃えしる設計

C L T等の外側の層(燃えしる層)の焼失後に残った部分を対象とした構造計算により、火災時に準耐火構造に要求される構造安全性を確かめる設計方法を定めた。建築基準法では、建築物の立地、規模、用途に応じて、準耐火構造としなければならない場合がありますが、本告示に基づく部材を用いて構造計算を行うことにより、3階建て以下の建築物で準耐火構造としなければならない場合(準防火地域内の共同住宅、事務所など)についても、防火被覆無しでC L T等を用いた部材を壁、床又は屋根に用いることができるようになった。

■記事の訂正 全市連時報平成28年3月号2面1段目及び同3段目に「消費・安全局長賞」とありますが、「食料産業局長賞」の誤りです。また、同平成28年4月号4面4段目右から4行目「京都義議定書」は「京都議定書」の誤りです。お詫びして訂正いたします。

雑記帳

古代メソポタミア文明と現代

中東でのI Sと周辺国等との激しい戦闘、多くの人命を含む戦争被害や貴重な歴史遺産の深刻な破壊のニュースが報じられている。イラクの状況は、日本の石油価格にも響いてくる。とはいえ、中東と日本との関連は今に始まったことではない。ピンとこない方が多いと思うが、古代メソポタミア文明は、現代の我々に大きな影響を与えている。我々が当たり前に使っている7曜日(月、火、水、木、金、土、日)の概念は古代バビロニア(メソポタミア南部)で生まれ、紀元前1世紀頃のギリシア・エジプトで完成し、7曜、ラッキーセブンの「7」は、当時のメソポタミアにおける聖なる数字であったとのこと。曜日については、当時の太陽系モデルの月・水星・金星・太陽・火星・木星・土星にちなんでのこと。更に、木材アドバイザーの講師の早稲田大学森川靖名誉教授の講義の趣旨を引用すれば、「ウルク(シユメールの都市国家)のギルガメシュ王が野人エンキドと共に、森の神フンババを殺し、レバノン杉(当時国際的な取引も行われた優良建築材)を手に入れるというギルガメシュ叙事詩。「文明の前に森林があり、文明の後に砂漠が残る。」という19世紀フランスの政治家・作家シャトーブリアンの言葉どおり、現代の環境問題(資源利用と環境破壊等)が、4,600年前から既に提起されていた」とのこと。現代文明が、いかに古代からの文化の蓄積の上に成り立っているか、しみじみ思うこのごろである。